

京都市交響楽団ビジョン（仮称）パブリックコメント結果（要旨）

1. ビジョン全般に関して

番号	内容	御意見に対する考え方
1	高い目標を掲げ、そのための具体策を示した点は高く評価する。また、オーケストラの組織の在り方や経営基盤の整備にも触れた点も画期的である。	今後より一層、京都市交響楽団が皆様に愛されるオーケストラになれるよう、本ビジョンに基づく取組をしっかりと進めてまいります。
2	市民との距離を縮め、より親しみのあるオーケストラへというビジョンは賛成。色々な場所で演奏が聴ける事も嬉しいが、京響の演奏の美しさは保ってほしい。	
3	非常に立派な事が書かれてあり感心した。	
4	今後の京響に夢を持てる、とても分かりやすく、大切な取り組みが掲載されていると感じた。	
5	ビジョンについては了解できる。	
6	よくまとまったビジョンだと思う。是非実現に向けて新しい試みにもチャレンジしてほしい。	
7	京都市民ではないが、京響のファンであり、定期演奏会をできる限り聞いている。ビジョンに書かれたことを取り組んでもらえれば何も言うことはない。	
8	京響の定期等コンサートに幾度も足を運んでいる。世界に誇れるオーケストラを京都にという考えはとても素晴らしい。	
9	楽団の方にとっても聴く側にとってもより良くなるビジョンにしてほしい。	
10	多くの方の多種多様な意見をくみ上げ、「画餅」で終わらないようにしてほしい。京響独自の個性が評判となり、超一流の楽団として世界で注目される日が来ると信じる。	本ビジョンにつきましては、中長期的なビジョンとして、京都市交響楽団が今後向かうべき方向を示すものとしております。本ビジョンの推進に当たっては、社会の動向やニーズを把握・分析しながら、具体的な取組を進めてまいります。
11	クラシック音楽を巡る環境は厳しい。東京中心からアジアに移行し、客層は高齢化が進行している。加えて、「オーケストラ」の競争相手は、多種多様な娯楽産業となっている現状を大前提とし、危機感を持って事業を行わない限り、オーケストラとしての生業は将来成り立たないということを共有する必要がある。	
12	抽象度が高く、あたり障りのない無難な印象は免れない。「人口減少社会」、「高齢化」、「危機感」、「ネットワーク社会」、「マーケティング」等の現状認識のキーワードをビジョンに含めることを検討してほしい。	
13	美辞麗句ばかりでは「夢まぼろし」に終わってしまう。現在の事業の総括をした上で、「理想」を謳うべき。	本ビジョンに基づき、より多くの市民の皆様に京都市交響楽団の活動、ひいてはオーケストラの意義をお伝えできるよう取り組んでまいります。
14	エンターテインメントオーケストラの在り方についてもっと市民の理解を促進すべき。	
15	グローバルズムよりユニバーサルズム、ナショナルズムよりインターナショナルズム、何よりも自分たちのローカルズムに誇りを持ち続けて「国際文化観光都市」をさらに飛躍させてほしい。	
16	持続可能な未来世界の実現をめざす「SDGs」等の活動と連携を密にしてほしい。	世界文化自由都市宣言を掲げる京都市のオーケストラとして、世界に向けて最高の音楽を発信できるよう取り組んでまいります。
17	世界文化自由都市として、ウィーン、ベルリン、アムステルダムなど世界各国にすばらしいオーケストラがある。より多くの国、都市の経験から学んでほしい。	
18	パリがどう芸術性が溢れていて、京響がどうしたらいいのか具体的に議論してほしい。	
19	ビジョンは団員含めてご自身で考えることである。	本ビジョンの策定に当たっては、京都市、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団、楽団員で協議してまいりました。策定後も関係者がしっかりと共有できるものにしてまいります。
20	戦略に優先順位を付ける必要がある。	5つの戦略は、目指す姿を実現するための大事な取組だと考えております。具体的取組については、優先度を判断しながら、すべての戦略について、しっかりと取り組んでまいります。

2. 目指す姿について

番号	内容	御意見に対する考え方
21	目指す姿に賛同する。	本ビジョンに基づき、目指す姿の実現に向け、しっかりと取り組んでまいります。
22	目指す姿はその通りだと思う。特に「世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ」に力を入れてほしい。間口を広げるだけでなく、クラシック音楽の奥深さを追求してほしい。	
23	「目指す姿」はたいへん結構だと思う。ぜひそのようなオーケストラになってほしいし、現状でもかなりできていると思う。	
24	目指す姿3（世界に向けて最高の音楽を発信し続けるオーケストラ）が達成されれば、世界共通の音楽を長く後の世に、能や狂言などの古典芸術とともに残していける。そうなれば、特にクラシック音楽に関心が深くない市民にも、京響が京都の文化発信源であると認知されるようになる。	
25	市民に身近で、愛され誇りであり、世界に最高の音楽を発信するオケは、京都の象徴となる。新たな価値を創造し、2項目に収れんさせてよい。	

26	京響が目指す姿は全く問題無いが、どの様に実現するかは具体策が少し抜けている。	本ビジョンにつきましては、中長期的なビジョンとして、京都市交響楽団が今後向かうべき方向を示すものとしております。本ビジョンを実現するための短期的な目標や具体的な取組につきましては、随時、しっかり検討し、取り組んでまいります。
----	--	--

3.各戦略について

戦略1

①「文化芸術都市・京都」を牽引する文化芸術の振興

ア 定期演奏会等

番号	内容	御意見に対する考え方
27	定期演奏会にもっと注力すべき。世界的な評価が得られれば、自ずと「市民に愛され誇りとされ」、「文化芸術都市・京都」の象徴ともなる。	定期演奏会は、楽団の根幹を成す重要なものと考えており、いただいた御意見も踏まえ、本ビジョンに、「定期演奏会を中核とし、」を記載しました。
28	定期演奏会数をさらに増やしてほしい。	
29	何に重点を置いているのかがやや見えにくい。活動の中核が定期演奏会であり、それが友の会と結びつくべきであるという視点に言及がほしい。友の会とは単なるファンの拡充という考え方にはとどまらない。	今後、いただいた御意見も参考にしながら、クラシック音楽・オーケストラの楽しさを実感できるプログラムづくりに取り組んでまいります。
30	定期演奏会のプログラムの見直しも大切。弦楽器だけの演目のあとに吹奏楽器だけの演目を入れたり、パーカッションだけの演目を入れたり工夫できる。	
31	京響定期演奏会の年間プログラムを「見える化」して頂きたい。観客不在である。オーケストラの成長、来年のトレンド、観客の要望を上手くブレンドさせることが必要。来年はベートーヴェン生誕250年。	
32	定期演奏会的な内容の本格的なプログラムをもっと増やしてほしい。現状は雑多な内容のプログラムが多すぎる。	
33	定期演奏会では新しいプログラムに取り組むべき。京響を聴いたことがない層を取り込んでほしい。しかし、吹奏楽はべつもの。	
34	京響が目指す“方向性”が見えるような定期演奏会のプログラミングを期待する。1年間という短いスパンではなく、5年先、10年先に京響がどのようなオケになっているのかイメージできるような長期的視野で見つめたプログラムによる演奏を聴いてみたい。	
35	もっと他の指揮者を招いてほしい。今のままでも満足だが、東京にばかり立派な方が集中するのは悲しい。	
36	世界水準を目指すなら世界で活躍する指揮者から学ぶ必要がある。	
37	世界水準の演奏を目指すのであれば、国際的に高水準の活動をしていて現に評価され続けている指揮者をもっと招くべきではないか。当然、高額な報酬が必要になるだろうが、1回でも実現できないか。京響がこれまでの楽団になったのは、広上氏の貢献大で、感謝あるのみだが、いつかは別れる時が来るのだと思うので。	
38	年末の第九公演と年始のニューイヤーコンサートは常任指揮者が必ず指揮してほしい。指揮者とオケの絆が試される。	
39	目指す音楽祭への参加や招待、高名な指揮者の招聘、音楽賞の受賞などへの挑戦が感じられる表現があってもよいのではないか。	
40	京響の楽団員のレベルは相当高いと思う。京響コンサートでソリストとしての活躍を聴いてみたい。	
41	若手作曲家に委嘱して京都をイメージした小品曲を書いてもらい、定期演奏会で演奏してほしい。	
42	過去の西洋の音楽の再現のみならず、邦人作曲家の新作を世に紹介する役割も大切。	
43	資金を出すだけの法人会員ではなく、実際に聴きにきていただけるように働きかけ、来場していただくことで、新たな聴衆獲得や会員獲得につながるような好循環を目指す取組をしてほしい。今の京響の演奏レベルであれば、来場いただくことで魅力が伝わると思う。	
44	高円宮妃殿下が名誉総裁なので、定期的にお招きしてはどうか。	
45	新春や記念コンサート等には国歌を演奏してほしい。	
46	世界各国の国歌、国民的愛唱歌をいつでも演奏できるように、財団所有譜面として備えてはどうか。	
47	戦略1に特に賛同する。	
イ 音楽家の育成		
48	音楽家の育成は教育機関の役割だが、市立芸術大学との連携とあるように、京響が担える役割もあると思うので積極的に取り組んでほしい。	京都市立芸術大学との連携をはじめ、新たな学生向けのチケットシステムを検討するなど、音楽家の育成につながる取組を進めてまいります。
49	京都市立芸術大学の学生と京響楽団員との演奏練習や演奏会での共演は大きな励みになるだろうし、いい勉強、経験を積むことができる。楽団員も気づきや発見があり、向上心を持てるようになる。学生と接することで「プロの音楽家としての誇りと京響楽団員としての自覚、責任の堅持」も身につけていくと思う。	
50	学生券とは別に、京都市芸術大学と堀川音楽高校の生徒は無料にして来場を促すべき。	

51	東京芸大とも協定を結ばれてはどうか。	今後、いただいた御意見を参考にさせていただきながら、具体的な取組を進めてまいります。
52	音大生や高校生とのワークショップを継続的に行って、それを公開してほしい。音楽のメイキングを「ビフォー・アフター」で聴き比べられたらおもしろい。ジュニアオーケストラの子もたちを混成して、それを発信すれば興味深い。	
53	演奏家を目指している若手支援のため、京都市主催のコンクールや若手演奏家による街中でのカジュアルなコンサート。	

ウ 市外での演奏会等

54	びわ湖ホールでの公演をもっと増やしてほしい。プロオーケストラのない滋賀県のファンを増やすことも京響の発展につながるのではないかな。	京都市から他都市に向けた文化の発信を行うことで、文化芸術都市・京都の魅力を発信し、市外の京都市交響楽団ファンの獲得にも取り組んでまいります。
55	主要都市での公演をもっと催すべきではないかな。	
56	東京公演で毎年聴きたいって言う聴衆は多いと思う。	
57	東京公演で京都の雰囲気を出すのは止めてほしい。鑑賞態度の悪い着物を着た観客を入れたり、ホールの玄関に灯籠を立てたり。余計な演出はプレーヤーにも失礼だし、リスナーにも目障りなだけ。京響の音楽さえ届けてもらえれば我々は喜んで聴く。	

② クラシック音楽・オーケストラの楽しさを実感できるプログラムづくり

ア 実施している演奏会の充実等

番号	内容	御意見に対する考え方
58	聴衆の層を明確に意識した展開が望まれる。客層の住み分けは重要であり、定期と他の演奏会を切り分けるとか、定期を例えば偶数月は初心者向け、奇数月は高度なファン向けといった打ち出しをするなどのターゲットの切り分けが必要。	いただいた御意見を踏まえ、本ビジョンに「クラシック音楽の奥深さの追求や他ジャンルとの共演など多彩なプログラムの創造に取り組む」を記載しました。今後、御提案を参考にしながら、クラシック音楽やオーケストラの楽しさを実感できるプログラムづくりに取り組んでまいります。
59	バッハを始め、その時代の作品に接する機会がない。	
60	「みんなのコンサート」は、妊婦さんやお母さん、保育士などの意見を聞いて企画してほしい。お母さんなどがコンサートを鑑賞している間の託児室に、子育て支援員などボランティアが参加することで市民がコンサートに関われるのではないかなと思う。	
61	財団全体で連携事業がもっとできるはず。	
62	京響がコンサートホールやロームシアター、地域文化会館を運営する財団の職員になるからには、地域文化会館での「みんなのコンサート」の回数を増やし、毎年各文化会館最低2回は実施すべき。	
63	聴衆の高齢化を大変憂慮しており、新たな聴衆を開拓する意味で「オーケストラディスカバリー」等を高く評価する。	
64	くりの岸田さんが作曲された交響曲の演奏会や子ども向けの演奏会など、クラシック音楽を深く知らない人も興味を持てるような取組を増やしていけば、より楽しく、より身近な交響楽団になると思う。	
65	「この業界が目覚ましい発展を遂げないのは新曲が出ないから」との意見は、当たっているのだと思う。現代音楽・POPSとの共演は、新しいファンの獲得に繋がる。	
66	「身近な存在として、市民に愛される」ためには、身近な音楽との融合も必要。流行の音楽やアニメ、ゲームの音楽等とタイアップし、クラシック音楽に触れてこなかった人たちにも興味を持ってもらえるよう企画してほしい。	
67	ジョン・ウィリアムズでのコンサートは素晴らしい出来だったが、楽団員が登場した際、拍手が全く起らないという光景を目にした。定期演奏会に通う方々が来ていないことが分かった。映画音楽のコンサートに来た方々が定期にも、というのは難しいことがわかる。	
68	ドラゴンクエストスペシャルコンサートは本当に感動した。何度でも聞きたいような感動、希望をいただいた。	

イ 新たな演奏会の提案等

69	演奏する曲を決めるリクエスト演奏会を開催してほしい。	いただいた御意見を踏まえ、本ビジョンに「クラシック音楽の奥深さの追求や他ジャンルとの共演など多彩なプログラムの創造に取り組む」を記載しました。今後、御提案を参考にしながら、クラシック音楽やオーケストラの楽しさを実感できるプログラムづくりに取り組んでまいります。
70	どんな曲目を演奏すればよいかは演奏会に来た聴衆の方々が判断し、アンケートによって感想を求めたり、どのような曲目を演奏すればよいか意見を求めることもよい。政治や思想によって音楽による表現の自由が侵害されないようにしなければならない。	
71	オペラ定期演奏会の復活を願う。	
72	演奏会形式オペラも京都コンサートホールで企画してほしい。	
73	特定の作曲家を取り上げるチクルスプログラムのシリーズ演奏会を開催してほしい。	
74	楽団員が個々に活動されている、小編成のアンサンブルを一堂に会してのコンサートを企画してほしい。	
75	各楽器のトップ奏者による特定の楽器のみにフォーカスした～尽くしというような演奏会があればよい。ソロやアンサンブルに始まり、協奏曲、その楽器の活躍する管弦楽曲を一度で楽しめれば、音楽の聴き方の幅も広がり、潜在的に聴衆となり得る吹奏楽経験者や中高生の獲得も見込めるのではないかな。	
76	京都には日本全国や世界に向けて発信力のあるコンテンツ産業があるにもかかわらず、京響がそれらと縁遠く感じるのが残念。任天堂や京都アニメーションなどの連携を期待する。	
77	劇伴（映画、演劇等の伴奏音楽）の音楽には力を入れてほしい。バレエやオペラの新作初演などは盛んだが、ダンスや演劇のための音楽は手つかずのまま。コンテンポラリーダンス、音楽劇など、日本の現在の舞台芸術の常識を京都の公共オーケストラが覆すのは痛快である。	

78	ミロシユ・フォアマンの「アマデウス」という映画にオーケストラの生演奏をつけてコンサートしてほしい。以前、兵庫県立芸術文化センターで金沢交響楽団の演奏をスクリーンでみたがほぼ満席だった。	いただいた御意見を踏まえ、本ビジョンに「クラシック音楽の奥深さの追求や他ジャンルとの共演など多彩なプログラムの創造に取り組む」を記載しました。今後、御提案を参考にしながら、クラシック音楽やオーケストラの楽しさを実感できるプログラムづくりに取り組んでまいります。
79	京まふ等のイベントに関連のある曲を演奏したり、京都の知名度のある企業とコラボレーションすれば、知名度も評判も上がって良い。	
80	国際社会で活躍するミュージシャンとの共演、中国などの胡弓、インドのシタール、インドネシアのガムランなど異色の取り合わせによる演奏の企画もよい。	
81	“雅楽”との共演に力を入れてみてはどうか。観光客にも新しいスポットが提供できるのではないかな。	
82	日本人作曲家への新作委嘱、伝統芸能とのコラボレーションなどを積極的に行い、古都京都ならではの新しい文化の創出を目指してほしい。	
83	吹奏楽プログラムは、金管木管のアンサンブル活動はわかるが、敢えて取り入れる必要はない。	
84	吹奏楽プログラムの取り入れは正直あまり入れてほしくない。	
85	吹奏楽プログラムは反対。弦あつてのオケです。消防団等正統派のプログラムでなければ魅力はない。メンバーによるサブコンサートも必要ない。現在のプログラムで満足している。益々レベルアップする事を願っている。	
86	世界初演曲を市民の大合唱団を結成して京響と発表するなど、市民参加型のコンサートがもっとあれば嬉しい。	
87	京都を訪れる世界の子どもたちから、名所で、例えば「銀閣寺」をメロディーにして一節歌ってみて！と誘い、オーケストラ・アレンジして京響が演奏し、世界規模のコンクールをイベント化してはどうか。	

戦略2

③ 子どもたちの豊かな心をはぐくむ教育プログラムの積極的な展開

番号	内容	御意見に対する考え方	
88	ジュニアオーケストラは、素晴らしい成果の1つであり、もっと発展させてほしい。	今後も、本ビジョンに基づき、ジュニア・オーケストラの活動に積極的に取り組んでまいります。	
89	ジュニアオーケストラなるものを初めて知ったが、素晴らしい取り組みだ。ぜひこれからも続けてほしい。		
90	ジュニアオーケストラは、儲ける必要はないが収支均衡になるような事業でないといけない。		
91	1年に6回楽しんでいる。小学生、中学生へのコンサートに力を入れているのは、とてもよい。小さい時から「ほんもの」に出会うことは、大きな感動が得られる。娘も少年合唱団で京響とも共演でき感動していた。		今後も、小学生・中学生の音楽鑑賞教室やオーケストラディスカバリー、みんなのコンサートにおいて、質の高い音楽を提供してまいります。また、いただいた御意見も踏まえ、子どもたちがこれまで以上に京響の音楽に触れ、楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。
92	幼いころから京響の音楽を聴いて育つことが重要。声を上げてもいいような雰囲気や聞ける機会があると子どもを連れていきやすい。		
93	ファンの高齢化が進んでおり、若者のファンを増やさなければ未来はない。小中学生のための鑑賞会はぜひ続け、一層機会を増やしてほしい。		
94	京響は小学生への演奏会でも手を抜いていない事は理解しているが、小学生相手に「これくらいでいいや」では音楽の良さを伝えることはできない。		
95	小中学生にもっとプロの生の音を聴かせてあげてほしい。		
96	小学校や保育所の音楽の授業に楽団員の方が来ていただけると嬉しい。近くでプロの演奏を聴くと子供たちは感動すると思う。		
97	子育て中の親をターゲットとした「子供を連れてきてよい本格的なコンサート」の需要があると思う。子育て世代の音楽ファンはコンサートを我慢している。子供がどんなに騒いでも最高のクラシックを気兼ねなく聴けるようなコンサートを企画してほしい。		
98	小学生や中学生向けの音楽鑑賞教室などは、市直営のオーケストラらしい素晴らしい活動ではあるが、これらは他のオーケストラでも自治体の費用で実施している。		
99	中学生のコンサートへの補助や京都府での鑑賞教室を実施してはどうか。		
100	京都市立芸術大学の学生によるコンサートが小学校の体育館であり、子どもたちは初めて聴くオーケストラの迫りに驚いていた。音響は悪いかもしれないが、京響も小学校に来てもらえると嬉しい。		
101	教育プログラムをやるならば本気でやってほしい。サッカーリーグのクラブにあるようなジュニアのチームを作るなど、組織的に音楽教育を展開してほしい。企画力も実行力も要求されるので中途半端になるぐらいならやらない方がよい。		

④ より多くの幅広い市民に京響の音楽を届ける鑑賞機会の提供

ア 時間帯等

番号	内容	御意見に対する考え方
102	仕事の関係上休日に休めない。平日の開催を増やしてほしい。	より多くの方に京都市交響楽団の音楽を聴いていただけるよう、いただいた演奏会の時間に関する御意見も踏まえ、具体的な取組を検討してまいります。
103	平日の午後に演奏会をしてほしい。定期演奏会を金曜日と土曜日、または日曜日と月曜日にしてはどうか。	
104	定期演奏会を平日の午後に開催してはどうか。2回公演のうち1回を金曜日に開催するなど。土日に休みにくい職種の方たちが来場しやすいと思う。	
105	平日に演奏会を開催してほしい。	
106	午前中の演奏会だと終了後、ランチができる。夜は、遠方の方が厳しい。	
107	定期演奏会以外に老人ホームや子供向けコンサートも良いとは思いますが、ワンコインコンサートや、平日昼間に気軽に聞ける1時間のコンサートなど計画してほしい。	
108	定期演奏会の時間をもう少し早くしてほしい。30分でも早めてもらいたい。	

イ 場所等

109	神社仏閣でのコンサート、練習場コンサート、野外コンサート（円山）を実施してほしい。	より多くの方に京都市交響楽団の音楽を聴いていただく機会をつくることが重要との考えから、本ビジョンに「一層目に触れ、耳にする」を記載しました。今後、いただいた演奏会の実施場所等に関する御意見も踏まえ、具体的な取組を検討してまいります。
110	協力してくれる寺院で定期的にミニコンサートを開催してほしい。外国人観光客にもアピール出来るのではないかな。	
111	誰もが耳にすることができる所で魅力的な演奏を通りがかりにでも聞くことができれば、クラシックや楽器に興味を持つ人も出てくるのではないかな。閉じられた空間だけでなく、オープンな場所でも演奏をすればもっと新しいファンが増えるのではないかな。	
112	以前行われていた大文字コンサートのような野外コンサートを夏季に実施できないかな。円山音楽堂で年一回、肩の凝らないプログラムを入場料無料で開催すれば、ホールに来たことのない市民にも広くアピールできると思う。	
113	円山公園音楽堂を活用して市民参加型のカジュアルな雰囲気野外フェスなどを企画してはどうか。	
114	もっと色々な企画を積極的に打ち出すべき。例えば、過去に行われていた野外コンサートは復活できないかな。大きな視野で、京都市全体を祝祭会場に見立てるのも面白いと思う。	
115	ヴァルトビューネ野外コンサートのようなクラシックをビール片手に楽しめたり、小さい子どもさんも家族とピクニック感覚で楽しめるような夏の野外コンサート。	
116	ラ・フォル・ジュルネのような、演奏会場もコンサートホールだけでなく、お寺や神社・公園、駅など京都の街全体で、国内外のオケや音楽家が一同に集まり、大小様々なコンサートをお祭り感覚で気軽に楽しめ、海外観光客も体感したくなるような京都市主催のクラシック音楽祭。	
117	ホールに行けない市民のために出張コンサート（京北、大原等）を実施してほしい。	
118	コンサートホールだけでなく、交通の便のよい会場で聴くことができれば、より多くの市民が京響の音楽に親しむことができると思う。	
119	より広く京響の演奏を聞いてもらうため、京都駅前に移転予定の京都市立芸術大学のホールでも演奏会をしてほしい。	
120	市民に身近な存在であるには、市内各所でのアンサンブルや、小・中学校での訪問演奏といった、外に出ていく幅広い活動も行うべき。演奏力を高め世界に発信することに加えて、市民への「還元」についても、意識して取り組みを進めていただきたい。	
121	市民の税金で成り立っている楽団なので、もう少し市民の目に触れる機会があっても良いのではないかな。市内在住だが、ほとんど、目にする、耳にする機会がないのが残念。	
122	福祉施設などでの演奏活動も是非続けていただきたい。	
123	介護老人福祉施設や障がい者施設等に入所、通所されている方々にとって、特に訪問演奏はいい取組だと思う。「高齢者大学」での楽団員による講座も好評のようで続けていただきたい。	
124	「市民に愛され、世界に誇れる」を目指すなら、大きな公園や広場、大手スーパーなどで市民が無料で聴ける場を設けてほしい。関西のオーケストラでは、必死にお客さんを集める姿をよく見かけるが、京響にはあまり演奏家の方が熱心に働きかけていないように見受けられる。	

ウ 実施方法等

125	室内オーケストラも編成し、定期的に演奏会を開催してほしい。楽団員の任意によるものがあるが公式なものがない。	より多くの方に京都市交響楽団の音楽を聴いていただけるよう、いただいた演奏会等の実施方法に関する御意見も踏まえ、具体的な取組を検討してまいります。
126	京響楽員による室内楽やソロの演奏会を京響の演奏会として展開することで京響のブランドを向上できないか。京響主催の室内楽コンサートがもっとあってよい。京響の木管首席四重奏や弦のソロ・首席四重奏などぜひ聴いてみたい	
127	小編成でモーツァルトや室内楽など同日に複数の場所で演奏会をこなすことも検討すべき。	
128	少人数での演奏会をされているが、色々なメンバーの演奏が聴きたい。いつも同じようなメンバーが演奏されている。	
129	団員を増やして室内楽のコンサートを行ってほしい。3000 円くらいで回数を増やして収入を増やすのはどうか。	
130	京響の名を冠した室内楽などを実施してほしい。その一環として「京都の秋音楽祭」に、楽団員による室内楽が中心になって、主な建物のホール等で演奏し、街と音楽を繋げていただきたい。	
131	北文化会館や呉竹文化センターでは「京都しんぷおにえつた」による演奏が好評。地域文化会館で京響メンバーによる演奏会を廉価で実施すれば、固定客もつくし、若手の奏者も演奏機会が増えて一石二鳥だと思う。	
132	市内各所での小編成の演奏会はぜひ実現してほしい。各区で 1 年に最低 1 回は気軽に行ける演奏会があると市民に身近な存在なと思う。	
133	「京都の秋音楽祭」以外に、京響が中心となり、関西のオーケストラ・音楽家と共に一週間でも良いので、音楽祭を開催していただければ嬉しい。	
134	大規模な集客イベントが必要。「京都の秋音楽祭」は一旦区切りをつけ、春と秋に短期間の効果的なイベント開催を望む。北山地区における植物園等との相互利用促進も有効。また、クラシック音楽、演劇、映画、美術、日本古典芸能の垣根を取り払い、「京都」のブランドを前面に打ち出した総合芸術のイベントが求められる。	
135	フラッシュモブなどにぜひチャレンジしていただきたい。繁華街でいきなり京響の演奏に遭遇してみたい。	
146	楽団員による大人向けの楽器指導してほしい。	
137	京響メンバーによるアウトリーチ活動を充実すべき。各学校や地域文化会館で子供たちに楽器の指導や演奏会を開催することもできるはず。	
138	クラシックを生で聴きたくても子育てをしているとなかなか難しい。乳幼児も入れるコンサートを増やしてほしい。	
139	演奏会に行けない市民へのゲネプロ公開等も実施してほしい。	
140	広響は練習公開を 3 日間実施している。京響も市民に愛されるオーケストラを目指すのならそれくらい公開してほしい。	
141	低価格で短めの演奏会があれば、今までハードルの高いと思っていた方も、行きやすくなるかもしれない。	
142	料金を下げるか、据え置きを希望する。無料演奏会を増やしてほしい。	
143	聴衆の層を明確に分けた展開が必要。この項目は戦略1と重複すると思う。統合してほしい。	
144	所得や身分に関係なく音楽を楽しめるまちづくりをする事でより多くの市民が演奏会に来場できると思う。	
145	近隣の都市で交響楽団への公金支出が見直される中、京響は、市民にとっても楽団員にとっても贅沢なものだと思う。京響の芸術性や、ひとづくり・まちづくりへの貢献を共有し、市民が京響をまちの誇りだと思ってこそ存続していけると思う。	
146	世界水準の交響楽団が存在し、子どもの頃からその音楽を耳にできる環境は素晴らしい。音楽に親しむ習慣のない市民も含め、京響の活動を発信し、理解・共感を得ながら取組を進めることが大切だと思う。	

戦略 3

⑤ 京響ファンに喜ばれるサービスの提供と新たなファンの獲得

ア ファンサービス

番号	内容	御意見に対する考え方
147	演奏会で音楽を「発信」するだけの一方通行ではなく、例えば、ファンから演奏する曲のリクエストを受け、今年一番の曲、今年の最優秀楽団員・指揮者・ゲストを選ぶなど、ファンの側からのアクションを京響が「受信」することをもっと意識してほしい。京響の発展に自分が貢献したことが目に見える、実感できる双方向の関係があれば、ファンの愛着はより深くなっていくと思う。	楽団とファンの皆様との双方向の関係づくりは重要であると考えております。いただいた御意見を踏まえ、本ビジョンに「ファンとの関係づくりを進め」を記載しました。
148	ファン投票によるシーズンベスト公演、指揮者、ソリストの選出及び表彰を実施してほしい。	今後、ファンとの関係づくりを進めるための取組の具体化に当たって、いただいた御意見を参考にさせていただきます。
149	Webサイトでアンケート入力できるようにする。	

150	コンサートには頻繁に行っている。事前の解説があったり、コンサート終了後にレセプションがあったり、とても良い。	ファンの皆様と楽団員との交流について、ファンの皆様に一層喜んでいただける取組となるよう検討してまいります。	
151	楽団員が出演するアンサンブルやリサイタルの情報発信、コンサート前のロビーコンサートなど、レベルの高い楽団員の演奏に直に触れる機会があれば楽しい。		
152	レセプションのうち1回は別会費徴収でケータリングを入れ、盛大なものとし、より一層楽員との親睦を図ってはどうか。		
153	演奏会終了後に、一部の楽団員が見送りしているが、もっとたくさんの楽団員の方と触れ合えれば、うれしいと思う人も多い。これからも応援している。		
154	公演終了後のレセプションは同じ人しかいない。楽団員を身近に感じる情報発信というのならもっと多くの楽団員と触れ合える機会を作るべき。		
155	レセプションに初めて参加したが誰が演奏者か、話しかけていいのかわからない。		
156	楽団員と観客の意見交換の場がほしい。		
157	3月定期演奏会での卒団セレモニーと同様に、新入団の楽団員の紹介セレモニーも実施してほしい。		
158	友の会会員への優待券（ゴルフクラブ、テニスクラブと同様）があればよい。		
159	「ありがとうございました。これからも頑張ります。」の一文だけで終わらせるのではなく、多くの人が見えやすい形で、「京響の反応」を示すことにより、今回意見を出した京響に興味がある「アクティブユーザー」を味方に付け、京響について考え、興味を持つ人を増やすきっかけを作ることが重要。		今後、いただいた御意見を参考にファンの皆様に喜んでいただき、関係づくりが進むよう取り組んでまいります。

イ 新たなファンの獲得

160	定期会員のチケットは、当日来られない場合空席になる。京響へのチャリティーチケットをつくって、当日行けない場合、当日券で発行し、そのチケット代は京響へ寄付という制度を使ってみてはどうか。	いただいた御意見や検討会議における議論を踏まえ、来年度から、学生向けの新たなチケットシステムや障がい者割引の導入、留学生の無料招待を実施する予定です。
161	障がい者手帳提示で割引がきかないのはコンサートから離れてしまう要因にもなりかねない。	
162	留学生の無料デイを設けるのも一考かと思う。	本ビジョンの実現に当たっては、多様な主体との連携が重要と考えており、本ビジョンに、「様々な分野と連携することにより」戦略的な情報発信に取り組むことを記載しました。今後、いただいた御意見を参考に取組を進めてまいります。
163	最近定期演奏会でも外国人の姿をみかけるようになった。市内在住の外国人や外国人コミュニティに何か働きかけをしているのか。大学、研究機関、企業、ホテルなどに向けて、さらに積極的に活動されるというのではないか。	
164	空席をなくす努力が足りない。空席解消策の一つとして、クラシックに渴望している地方の人を標的に、京響定期公演のチケット、地下鉄と市バス一日乗車券とホテル代をワンセットにして売り出すというのはいかがでしょうか。	
165	外国の観光客にプレゼント（しおり、お香等）をしてはどうか。	
166	国際会議やイベントに合わせて、演奏会を開催し、海外の訪問客にアピールしてはどうか。	
167	京響の素晴らしい音色を知らない市民が多い。一般の市民の目につくようなイベントでの出張演奏などができればよいと思う。	
168	万博で訪れる内外の観光客を京都へ呼び込むイベントを実施してはどうか。	
169	京都サンガ、京都ハンナリーズと連携しつつ、外国人への集客活動を展開していけば、もっと幅広い層からの来場が期待できるのではないか。	
170	今以上に新たな情報発信は難しいのではないか。楽団員が出ていき、実際に演奏や指導を通じて市民や学生、アマチュア音楽家などと接することがファン獲得につながると思う。今の京響の演奏レベルであれば、直接演奏に触れるだけで相当な効果を期待できる。クラシック音楽の主要な客層であるアマチュア音楽家や中学高校・大学の音楽系部活動などへの出張交流などもファン獲得に効果的だと思う。	

⑥ 京響・楽団員を身近に感じる情報発信

ア 音楽配信等

番号	内容	御意見に対する考え方
171	過去の記録（録音・録画・印刷物等）は、系統立てて整理・保存しているのか。	過去の公演記録等については、楽団の貴重な財産であり、後世に適切な形で引き継いでいけるよう取り組んでまいります。
172	京響の過去の演奏記録については、当時京都市が著作権隣接権の管理を怠っていたためCD化等により一般に発表することが困難とのこと。大変残念である。アナログテープは経年劣化が避けられないため、早急なデジタル化が望まれる。貴重な記録を後世に伝えるのも楽団の責務である。	
173	演奏会に行けない人のために、京響友の会の特典として演奏会の録音音源を安価で買えるようにするのはどうか。安定した収入増にもつながるのでは。	いただいた御意見も踏まえ、来年度から、演奏会のインターネット配信や、パブリックビューイング形式での配信を実施する予定です。
174	定期演奏会や地方演奏会のDVD、ブルーレイの販売。	
175	近年毎月のように在京、在阪オケによるCDがリリースされている。京響は音楽雑誌などでの宣伝が少なく地味。CD販売や宣伝にも力を入れていくべき。	

176	インターネット上での展開をどう考えているのか。海外の聴衆を獲得するためにも、抜本的に考え直すべき。	
177	YouTubeで京響チャンネルを設け、演奏会のCMや、楽団員の演奏動画、フラッシュモブなど企画もの、楽団員の個人活動の情報配信も含めて動画コンテンツを配信。	
178	京響の音楽聴いたことがない。You Tube配信や、公式Twitterでリハや演奏を聴かせてほしい。	
179	世界の有名でないオーケストラの演奏を知っているが、YouTubeで映像が配信されているからである。YouTubeの場合は視聴者の好みによって映像がセレクトされるので、京響の演奏風景が配信された場合、世界中で観られる可能性が高くなる。放送局との提携を視野に入れる可能性もある。歴史的建築での演奏ももっと行ってほしい。神社等だけでなく、明治以降のモダンな建築での演奏は、両者の魅力が相まって、日本中の人々を引きつける可能性がある。	いただいた御意見も踏まえ、来年度から、演奏会のインターネット配信や、パブリックビューイング形式での配信を実施する予定です。
180	演奏会をネット配信してほしい。	
181	駅や公共施設で京響が流れていてもいいし、今の時代、ネット活用は必須である。ホームページで試聴できる、あるいは解説付きの教育コンテンツを作成して有料配信するなど、色々考えられると思う。積極的に打って出て、すばらしい音楽をたくさんの人に聞かせてほしい。	
182	演奏を聴いたこともないというのが世界の9割9分9厘の感想である。少しでもいいから京響を知ってもらうことが重要。TwitterやInstagram、FacebookやYou TubeやTVまで全ての情報発信媒体を使う必要がある。ホームページは少なくとも5ヶ国語の言語表示を可能にすべきである。京都という文化も、そこに生きる人が誇りを持ち守り伝えてきたからこそ世界に誇れる都市になっている。京響に誇りを持っているなら、情報発信を怠らず、京響を世界に誇れるオーケストラとして世界に大声で叫ぶしかない。	
183	定期演奏会のKBS京都でのTV放送やyoutubeなどでの動画配信はできないか。	
184	KBS「京の響」の復活を切に願う。野球のオフシーズンはタイガースから京響にバトンタッチしてみてはどうか。	
185	米国の有名オーケストラは、ラジオ放送でその演奏が広く聴かれている。私は京響も定例ラジオ放送をされるのが望ましいと考える。米国ではラジオ放送はスポンサーによって資金提供されているが、京都には優良企業が沢山ある。是非実現して頂きたい。	今後、いただいた御意見を参考に取組を検討してまいります。

イ 楽団員の情報発信

186	楽員紹介は、ホームページだけでなく、冊子を作って販売することを提案する。	
187	メンバーの顔写真をホームページに掲載する（個人情報開示をOKの方のみで良い）。他楽団では概ね公開している。	
188	どの曲で誰がどの位置で演奏しているのかを知りたいと思ってるファンも少なくない。名フィルや新日フィルは、メンバー表をパンフレットと一緒に配布しているが、京響もメンバー配置表があればいいと思う。	
189	京響は全国的に見ても素晴らしいソリストが集まっているので、「京響のPR大使」として活動するのはどうか。京都市や京響もソリストとしての活躍を取り上げてはどうか。若い人は特に各奏者たちの活躍やその人柄などに惹かれると思う。	
190	京都市ほど音楽的環境を整えてもらっているところはないと思う。その強みを生かし、音楽以外のイベントにも京響をはじめとする音楽家や音楽関係の学生を起用してはどうかと思う。	いただいた御意見を踏まえ、本ビジョンに、「インターネットをはじめ」と、多様なメディアを活用することを記載しました。今後、御意見を参考に楽団員の魅力の発信に取り組んでまいります。
191	ツイッターなどで楽団員の気軽な情報発信を簡単に見つけて閲覧したり、意見交換できるような工夫をしてもらえると楽しい。最近、九響がSNSを上手に活用しており、コミュニケーションが盛んになっているように感じる。	
192	京響の名前と顔をもっと世間に知ってもらうことが重要。指揮者・団員がテレビ・ラジオへ出演し、広告塔として活動されると良いと思う。	
193	T VやF Mに出演してはどうか。	
194	戦略3については今でも十分ではないかと思う。楽員の紹介、スタープレイヤー育成にも賛成。	
195	楽団のスターは必要ない。スター気取りではなく、楽団員の信頼を得てまとめられるコンマスの下、オーディションで入団し経験を積んだ全員がスタープレイヤーである。	
196	京響ファンにとっては、楽団員全員がスターだと思う。楽団員の活躍や音楽活動などの情報を知る機会があれば、ファンとしてより身近な存在と感じるのではないか。	

ウ その他

197	パンフレットの内容ももっと充実させる必要（英語併記）がある。京響のパンフレットも改善されたとは思いますが、残せるようなものとする努力が必要ではないか。金額にもよるが、有料でも良いと思う。	パンフレットやプログラムについて、演奏会を一層楽しんでいただけるものとなるよう、いただいた御意見を参考に充実してまいります。
198	京響のパンフレットやプログラム、チラシなどの印刷物について、文字が小さく読みづらい。	
199	定期演奏会を隔月2回行うようになったが、京響にはかなりの空席が目立つ。西宮のPACは3日間でも満席。PACは会場の雰囲気の花があるが、京響は演奏は上手いが周りに花がない。その理由として、プログラムがつまらない。楽団員メンバー、指揮者、ソリストの紹介、曲目の解説、ここまでは良いが、「京響友の会」の名簿を毎回掲載する理由はない。	
200	定期演奏会のプログラムのデータ（PDF）配布。過去のものもデータ化して販売。	いただいた御意見を踏まえ、本ビジョンに、「インターネットをはじめ」と、多様なメディアを活用することを記載しました。今後、御意見を参考に戦略的な情報発信に取り組んでまいります。
201	より多くの方に京響、楽団員を身近に感じていただけるよう、音楽はもとより、楽団員の魅力についても、戦略的に情報発信に取り組むことで、京響、楽団員の良さがわかり、鑑賞されない方も鑑賞してくれるようになるかもしれない。	
202	国内外のメディアや評論家に、楽団員の活動を含めて積極的に情報発信し、厳しい評価は向上の糧に、高い評価はさらなる情報発信の糧にされるのはどうか。	
203	京都の文化を感じられるオーケストラ専用の楽器運搬車（オケトラ）を導入して、広告塔として広くファンに公開し、演奏以外でも愛される活動に取り組んでいただきたい。	
204	市会開会での演奏も、カルテットの規模ではなく、せめて室内オケぐらいの規模で、オーケストラの魅力が伝わるような場としていただきたい。市会議員がみんな京響の定期に行く日があってもいいと思う。	
205	京響の音楽を聴きに来ってもらうには、京響を好きになってもらう必要がある。京響には好ましい部分があるということを知ってもらい、感じてもらうために、京響の良いところ、好きになれるところを全世界に向けて発信する必要がある。音楽は聴いてもらえなければ伝わらない。言葉や音楽やその媒体の魅力も伝える事が大事。	

戦略4

⑦ プロの音楽家としての誇りと京響楽団員としての自覚・責任の堅持

番号	内容	御意見に対する考え方
206	戦略4に書いてあることを文字だけではなく、一人一人が自覚し、実践しなければこのビジョンが生かされない。しっかりと実践してほしい。	今後も、本ビジョンに基づき、プロの音楽家集団として自覚ある組織風土づくりに取り組んでまいります。
207	戦略4について異論はない。	
208	戦略4は「何を今さら」というような当たり前のことが書かれているが、あえて書かなければいけないのか。	
209	他楽団とのコラボ等により違う風を入れて楽団員のモチベーションが上がれば、全体的なレベルアップにつながるのではないかと考える。	いただいた御意見も踏まえ、本ビジョンに、楽団員の創意や個性を「伸ばし活かせる環境を整える」ことを記載しました。今後、御意見を参考に京響楽団員としての自覚と責任を堅持して活動してまいります。
210	楽団員一人ひとりが他のオーケストラの客演を出来るように計らうことがスタッフの務めと考えてはどうか。	
211	楽員の資質の向上に資するとの観点から、オーケストラ活動以外の場面で、室内楽や各種アンサンブル、ひいてはソロの活動をもっと積極的に評価しかつ支援していくといった記述が必要ではないかと思う。楽団の外での幅広い演奏活動が全体のレベル向上に大きく貢献するものと確信している。	
212	京響としてのソロ活動を展開することで、楽員の収入増や動員につながるような取組を行うとよい。	
213	楽団員の方々を超一流のプロとして、より一層音楽に集中できるような待遇と環境の提供。たとえば、衣装に関しては現状個人で管理されているように見受けられるが、衣装は楽団で完全管理すればよい。	
214	目からも音楽を感じるので、服装や髪色などの品格と弾き方が悪く乱れている人は目立たない位置へ。トータルで素晴らしいオーケストラを目指してほしい。	
215	金髪のようないでたちは相応しくない。	
216	定期演奏会が終わると一目散に電車に乗り、スマホを触っている楽団員を見かけるが、毎回興ざめする。本物の音楽をいい席で聴きたいと思って定期会員費を工面している者からすれば、がっかりと言うほかない。	
217	京都市直営という位置づけで来ていたせいか、楽団員のハングリー精神が足りない。	
218	舞台スタッフが他のスタッフを罵倒していた。恣意的に発する荒々しい言葉は呆気にとられた。周りは見て見ぬ振りをしてしたが、公務員の告発義務に違反していないのか。また、楽器運送事業者が一社独占であることは、疑念を抱かざるを得ない。これら演奏現場でのサポート体制に、問題があると感じざるを得ない。京響を応援する気持ちには変わりない。健全な団体、更に洗練された現場を公開できるような団体となることを心より願う。	不適切な言動等により、不快なお気持ちにさせてしまったことを心よりお詫びいたします。今後とも、コンプライアンスを遵守し、適切な対応を取ることができるようしっかりとした組織づくりを行ってまいります。

⑧ 活発なコミュニケーションによる創造性と調和の追求

番号	内容	御意見に対する考え方
219	曲目や指揮者、シチュエーションによってモチベーションに波が出るのが気になる。芸術家としてそういう面があることは理解するが常に聴衆を意識することで改善するのではないか。そのためにも、その日の聴衆、その日の選曲の意味などを楽員間で共有することが必要。例えば、0歳児にどういった体験をしていただくか、ひとりひとりの楽員が理解を深めることが大切。	今後、本ビジョンの実現に向けて、いただいた御意見を参考に楽団内のコミュニケーションを活発にしております。
220	事務局と楽員の間でコミュニケーションの強化。奏者ファースト、音楽ファーストの考え方を徹底してほしい。それが演奏の質を向上させ、聴衆を獲得することにつながる。	

戦略5

⑨ 持続的な収支構造の確立

番号	内容	御意見に対する考え方
221	市が条例を制定したのは、大いに歓迎されるべきもの。市の支援体制は重要だが、依存することは危険でもある。地元の企業や団体、個人による恒常的支援をもっと助け、友の会会員をはじめ、聴衆と相まって楽団を重層的に支えていき、そこへ行政が支援（額面が多くなるのは否めない）するという態勢が求められる。今やクラシック音楽は西洋からの輸入品や一部の好事家の趣味にとどまるものではない。	本ビジョンに基づく、持続的な収支構造の確立に向けて、いただいた御意見も参考にしながら、京響の自主財源の確保などに取り組んでまいります。また、御意見を踏まえ、本ビジョンに「5つの戦略の推進に向けて」として、「社会の動向やニーズを把握・分析しながら、具体的取組を企画・実施していく」ことを記載しました。
222	京響を継続的に運営するには、しっかりした財源や財務管理が必要だが、偏った財源確保によって楽団運営の先行きが心配になったり、演奏の自由がどうなるか心配である。多方面からの財源確保や収支報告の透明化とともに、京響友の会会員の募集やクラウドファンディングを実施してはどうか。	
223	関西では大阪フィルに次ぐ実力のオーケストラだと思うが、演奏回数が少なすぎる。東京のオケのように自前で聴衆を集めて収入を増やす努力をすべき。	
224	ビジネスとして成立しないと最高峰の文化芸術どころではない。異業種のマーケティング技術の活用が望まれる。外部コンサルタントの利用による市場分析や適切な価格設定を採用し、日本におけるアート・マネジメントの先駆となるようなビジネスモデルを構築して頂きたい。	
225	京都市からの財政支援には市民の税金が使われている。京都市からの支援や寄付金に頼るのではなく、自ら収入を増やしていく努力をすべき。演奏収入を増やしていくためにも、公演回数を増やすことや、チケット料金の価格設定についても、検討していくべき。	
226	京響は京都の誇り、文化的財産。文化には金がかかる。大阪のような考えではだめ。行政がしっかりと支援を。ただし、自らの努力は必要。	
227	市民の税金が一部の好事家のために使用されるとの反論もあるかと思うが、日本独自の古典芸術とともに、世界共通の音楽の分野においても京都がその発信地になってこそ、市民の税金が生かされていると言える。	
228	合理化を進めても一定のコストがかかるのがオーケストラ。京都市には必要な支援を長期的に行っていたきたい。	
229	京響の存在そのものが、京都の価値を高めることにもつながっている。小学生の時に必ず京響を聴きに行くというのは、親から子へ受け継がれている。このようなオーケストラは他にないと思う。しかし、京響が財団化によって、運営が厳しくならないか心配。	
230	市立芸術大学の移転の次のステップとして京響練習場を移転し、楽団員兼教員と学生との芸術活動における相乗効果と、市保有資産の共用や事務管理業務の統合により、管理コストの削減を図ってはどうか。	
231	財団職員となったことを機にフレキシブルな予算の振分け、スピード感、費用対効果のある広報等目指してほしい。	
232	戦略5について異論はない。	
233	小額からの寄付金制度を創設してはどうか。	
234	公益財団法人への寄付金は税制で優遇される。ふるさと税制のようなお返しなども検討し、経営基盤を整える材料にしてはどうか。	

⑩ 京響の発展を支える体制の構築

ア 楽団員

番号	内容	御意見に対する考え方
235	京響は、近年、大変美しい音になり喜んでいる。京響がよくなったのは若い団員が多く入ったことによると感じている。いろんな観点からそう思う。京響に若い人が一定の割合で存在するシステムを作ってほしい。	いただいた楽団員の採用に関する御意見も参考に、京響の更なる発展に向けた体制の構築を図ってまいります。
236	兵庫県立芸術センター管弦楽団のアカデミック・オーケストラ発想の事業運営を参考に、プロ野球でいうところの二軍、有期雇用、20歳代を中心とするメンバーによるオーケストラ組織を編成し、クラシック音楽、オーケストラへの拡大とコアメンバーによる若手演奏家への教育の両面の目標が達成できるのではないか。	
237	戦略5に「全体の事業収支のバランス」とあるが、収支の均衡が保たれなければ、人件費が削られることもあり得るのだろうか。そうなれば、他の楽団に優秀な人材が流出し、使命を果たすことは不可能となる。明確に人材育成に関する方針を記述するとともに、人材確保のための財源を示すべきではないか。	令和2年4月に施行される京都市交響楽団条例において、京都市は、京都市交響楽団が活動を進めるに当たって必要な支援を行うことを明記しております。一方で、京都市の財政支援に過度に依存することのないよう、今後は、自主財源の確保にもしっかりと取り組んでまいります。
238	楽団員の給与待遇が良くなるのなら、尚更オーディションで優秀なプレイヤーを入団させてほしい。レコーディングして放送やCDとして売れる楽団にならないと本物とは言えない。	いただいた楽団員の採用に関する御意見も参考に、京響の更なる発展に向けた体制の構築を図ってまいります。
239	各パートの首席を複数にするとか、楽団員の数を増やすビジョンはないのか。限られた楽員数、労働時間数の中で、演奏会等鑑賞の機会を増やし、かつ、世界水準の音楽を求めることは可能なのか。	

240	2ndヴァイオリンの首席は長い間空席のままである。補充するか、次席の昇格で整えた方がよいのではないかと懸念する。高い評価を維持するには、他楽団以上に努力が必要だと思う。楽団の評価が高いときにこそ、一層の充実に努める必要があると思う。	現在空席になっているパートにつきましては、本ビジョンの実現に向けて、早急に課題を解消できるよう検討を進めてまいります。
241	退団した楽団員の補充がなされていないのが気になる。オーボエは、首席が優れているので、その後任を担える若い方を早急に補充する必要がある。コンサートマスターは、この規模のオーケストラでは、最近二人体制が常であり、早急に補充する必要があると思う。客員が多いと、楽団の特徴を出すことが困難になってくると思う。	
242	近年の定期演奏会を聴いていると、好不調の波があるように思われる。不調のときはほとんどの場合、コンサートマスターが、客演であるが、客演コンマスの能力の問題ではなく、極わずかな信頼関係にあるのかもしれない。演奏会の一曲目のアンサンブルの悪さ、そして後半になると修正されている点を克服するには、コンマスの責任は重い。しかし、一人でコンマスの重責を負い続けることは想像を絶する大きな負荷であるに違いない。多くのオケでは複数人のコンマスを置いている。京響でも複数のコンマスを置くことで、つねに最高のパフォーマンスを維持してほしい。	
243	他のオーケストラの団員その他を呼んでくることが多いのも気になる。力を借りないと京響はまともな音を出せないのか。そんなに京響のメンバーはだめなのか。私は京響を聴きに来ているのである。京芸の学生オーケストラを聴きに来ているわけでもない。	プログラム編成上の必要性や疾病等のやむを得ない理由で楽員が出演できない場合、エキストラ団員が出演することがありますが、今後お客様に満足いただける音楽をお届けできるよう努めてまいります。
244	楽団員は、何故、外国籍の人が少ないのか。邦人のみで、「世界に向けて最高の（クラシック）音楽を発信」するのは難しいと思う。世界に門戸を開くべきではないか。また、協奏曲等の独奏に、京響が誇る首席奏者を積極的に起用できないか。	今後、本ビジョンの実現に向けて、いただいた御意見を参考に取組を進めてまいります。
245	市内の各種団体・個人からの突発的な演奏依頼に、24時間応じられる救急医のような「救急奏者」を、全楽団員と事務局で作ってはどうか。	
246	京都市交響楽団は世界に誇れるオーケストラ。楽団員の方々の演奏に見合った賃金であることが、これからのオーケストラを成長させる最低賃金だと思う。	これまで京都市交響楽団が積み重ねてきた音楽をしっかりと維持し、高められるよう、運営主体である(公財)京都市音楽芸術文化振興財団と楽団の設置に責任を持つ京都市が連携して取り組んでまいります。
247	楽団員の雇用等については、楽団員や労働組合等の意見を慎重に考慮し、適当な措置を講じるべき。1980年10月27日にユネスコ総会で採択された「芸術家の地位に関する勧告」の「Ⅶ 文化政策及び参加」にまったくそのとおりの記述がある。	
248	楽団員の待遇（生活保障）を良くすることが重要。	
249	芸術に関わる人は生活が安定していなければ芸に打ち込めないと。今後も京都市が設置に責任を持つとあるが、その言葉通り支援を続けてほしい。	
250	本来、京都市交響楽団員は直営のもと、市が雇用者責任を持つべき。京響のトップ、楽団長が市長であるならば、なおさら、楽団員は京都市直営に応じた雇用形態があるべき姿だと思う。	京都市交響楽団の運営については、市直営から財団へ運営を移管することにより、国等助成金の獲得が可能となり運営の自由度が高まりました。その結果、近年京響が高い評価を得ることができたと考えております。

イ 事務局

251	これだけのことを進めるなら、優秀な「事務局職員」の確保を意識していく必要があるのでは。専門性のある事務局職員が活躍できる体制づくりを明記しておくことが大切では。	本ビジョンを実現するためには、事務局の体制を強化する必要があると考えております。その上で、職員の創意や個性を伸ばし活かせるような環境づくりに取り組んでまいります。
252	楽団経営の基盤強化の一つとして、楽団員はもちろんのこと、マネジメントスタッフ（音楽スタッフ含む）や事務局スタッフのバックアップも重要だと思う。	
253	事務局の企画スタッフも充実する必要があると思う。行政からの出向職員は管理面で貢献度が大きいと思うが、企画を担う専門性はない。指揮スタッフや楽員と行政をつなぐ企画スタッフを充実する必要がある。	
254	自治体オーケストラとしての使命を引き続き果たすためには、能力のある職員の採用や採用後の育成が欠かせない。戦略には、職員の採用や育成に関する戦略の記述が見当たらない。	
255	サッカー・野球のように事務局に京響OBを登用してはどうか。	
256	演奏会の数を増やすため、もっと営業力を向上させる必要がある。	
257	今の京響もよいが、さらに新しいアイデア等が活かされるように、あまり京都市が関与せず京響に任せてほしい。	

4. その他意見等

(1) コンサートホールについて

番号	内容	御意見に対する考え方
258	コンサートホールの在りようは京響の活動に大いに関係があると思う。来年で竣工25年になるが地下鉄、植物園側からのエントランスロードのみすばらしさは全国のホールでもトップクラスだと思われる。季節の花のプランターを置く、ありきたりだが桜を植える、楓を植えるなど、これまで一切検討されたことはないのか。ホール周辺の空間もまた音楽空間の一部である。	コンサートホールに関する御意見については、今後の修繕等も含め、いただいた御意見を参考に、よりよい施設になるよう取り組んでまいります。
259	1階の軽食が良くない。かつてのレストランをぜひ復活すべきだ。今の不味い食事では音楽に失礼である。この場所に、ポストコンサートちよっ一杯コーナーを設けてはどうか。演奏会の後、軽一杯飲んで語り合う。楽団員の参加も賛成。とにかく京響定期へ行くと、楽しいことがたくさんある空間にすれば、集客につながる。	
260	「市民に愛され、世界に誇れるオーケストラ」を目指すならコンサートホールの音響は致命的。新ホールを建設すべき。	
261	京都コンサートホール大ホール内へのエレベーターの設置を希望する。	
262	京都コンサートホールに傘立ての設置を希望する。	

(2) 京響へのメッセージ等

番号	内容	御意見に対する考え方
263	文化芸術の都としてこれからも京響を守り、京都の宝として発信していただきたい。	本ビジョンに掲げた目指す姿の実現に向け、5つの戦略を具体化していくことで、確実により良い音楽を皆様に届けることができると考えております。今後も引き続き、皆様に愛されるオーケストラになれるようしっかりと取り組んでまいります。
264	現状でも京都市交響楽団はすばらしいし、京都市、市民の誇りだと思っている。がんばってほしい。	
265	京都にある誇るべきオーケストラとして、さらに京響が飛躍することを期待する。	
266	京響いつも楽しく聴かせていただいている。	
267	音楽は、私の癒しの源であり、京響は、大変大きな存在。ずっと楽しんできた。京響が、ここまでの楽団になったことを本当に喜んでいる。	
268	いつも京響の演奏に力を頂いている。これからも素敵な音楽を聴かせてほしい。	
269	これからもみなさんに愛される楽団でいてほしい。応援している。	
270	昔からの京響ファンである。最近の活躍をわがこのようにうれしく思う。ビジョンの理念にのっとり、ますます発展されることを期待している。	
271	近年京響が各方面から高く評価されていることに對し、大変喜ばしく、関係各位の努力に深く感謝する。	
272	京響と事務局の工夫、努力は他と比べて優れている。素晴らしい。	
273	初の自治体オーケストラを誕生させた京都市は、真の文化芸術都市であり、市民の誇り。より一層演奏力の高いオーケストラになってもらいたい。	
274	再び生きる力をもらった。これからも期待している。	
275	広上氏が来てから演奏力が上がった。ファンとしては嬉しい限り。まだまだ向上できると思うので頑張ってもらいたい。	
276	世界に誇れる、レベルの高い音楽を身近に楽しめることは贅沢で恵まれていると常々思う。京響と京都市に感謝している。	
277	日本一のオケになれるよう、今後の活躍を楽しみにしている。	
278	京都市を代表する交響楽団として、音楽を通じて京都の魅力を各地各人に発信してほしい。	
279	毎月の素晴らしい演奏を楽しみにしている。	
280	これからのますますの京響の発展を望む。	
281	楽団員が意欲的に取り組み、かつ聴衆に個別の楽しみ方を見つけてもらえるような活動を期待する。	
282	検討会議委員の中に女性が一人もいない。	
283	京響友の会のメンバーの方や学生も検討会議委員の中に入れてはどうか。	
284	なぜ全世界に向けて意見を聞こうとしないのか。全世界の人に京響の音楽を聴いてもらおうという意識はないのか。最低でも英/独/仏/露/伊/韓/中語のホームページを作る必要がある。	
285	関西でイチバン給料が良い程度で鼻が高くなっているなら今すぐ考えを変える必要がある。京都は世界に誇れるのに、なぜ京響を誰も知らないのか。皆が知っているベルリン・フィルを追い越すことは無理なのか。客は貴重なお金と時間を使って京響の演奏を聴いてる。ベルリン・フィルより上手い、あるいは上手くなるくらいの気概は持ってほしい。期待したい、応援したいと思えるような演奏をしてほしい。	
286	ホルン、フルート、トランペット、クラリネット、オーボエの首席がすごいのは、独りで音を出し、ミスできない重圧があるからである。弦楽器はその点で甘さがある。軽くなでたような感じで弾いている様子が時に感じられる。日本の楽団に多く見られる弱々しさが京響の弦楽器集団にある。	
287	中・高校の吹奏楽に私は感心しない。本当のうまさを京響が見本で示してほしい。	